



名古屋柳城短期大学

# ちやべるにゅーす

第11号

2006年7月20日



この柳城に関わるほとんどの方が、介護福祉専攻の学生を含め、何らかの形で「保育」という営みに関係しているとわたしは思うのですが、さてここで根本的な疑問を一つ提出したいと思います。『「保育者」って、どういう人のことですか？』

この疑問に、あなたはどうか答えるでしょうか。「保育士資格、あるいは幼稚園教諭免許を持っている人」と答えるでしょうか。もちろん、資格は保育者として働くために必要なものですが、しかし「資格を持っている人」というだけでは、「どういう人？」という疑問に答えてはいないような気がするのです。

柳城を創立したマーガレット・ヤング先生は、その当時顧みられることの少なかった幼児と女子の教育に生涯を捧げられました。そしてその後の柳城の歴史も、一生を賭けてこの学校を愛し抜いた多くの方々によって支えられてきました。これらの方々の生涯は、報われることの少ない生き方と多くの人々の目に写ったかもしれませんが、ご自分達の生き方を決して後悔しておられなかったとわたしは確信します。なぜなら、これらの方々は真の意味で「保育者」だったと思うからです。

こういう「保育者」の姿とは、「世間の評価を心に留めず、自分が関わる人からの笑顔以外を報いとして求めず、その人のために自分の人生を喜んで捧げることができる人」、と言葉化することができるかもしれません。しかし、文字にしてしまった時点でうそっぽくなってしまふのはどうしてなのでしょう。それは、「保育者」というのは説明するものではなく、生き

方そのものを通じて伝わっていくものだからだと思います。子どもたちや、介護を必要とする方々と向かい合ったときに、そこで伝わるものは小手先のテクニックなどではなく、最終的には「その人」自身なんだろうと思います。

「保育者」になるとは、「今の自分」に「資格や保育技術」という衣をつけて天ぷらを揚げることではありません。自分の生き方を変えるということです。「保育者」という生き方を選ぶということです。建学の精神「愛をもって互いに仕えよ」も、それを何百回唱えても意味がありません。学校の中で、また毎日の生活の中でこの言葉が生きられてこそ、初めて意味を持つのです。

## 「保育者」って どういう人？

チャブレン 市原信太郎

柳城の素晴らしさは、歴史を振り返っても、また今現在の自分の身の回りを見渡しても、こういう意味での「保育者」である先輩たちや、先生・職員の方々とは出会うこと

ができることにあるのではないのでしょうか。お題目でなく、本当にそういうふう生きていった、あるいは生きている方々が目の前にいるのです。そういう場に働き、多くの方々の姿から学ばせていただいていることに、わたし自身も感謝しています。

柳城の卒業生でもある、ある幼稚園の園長先生に特別授業をしていただいたときのこの言葉が忘れられません。「この仕事は自分の青春を賭けても悔いることのない、すばらしい仕事だということを後輩たちに伝えたいんです。」自分の仕事について、ためらうことなくこう言える人生はすばらしい人生だと思いませんか？

## JICA 青年海外協力隊

### 墨さおり隊員(本学2002年保育専攻卒業生)からの報告!

墨さんは1998年3月に保育科卒業、本学専攻科保育専攻を2002年3月に修了しました。2004年12月から、長年の夢を実現させ青年海外協力隊員としてパキスタンのフマックで幼稚園教諭をしています。昨年はパキスタンの大地震に遭遇し、被災した子どもたちを遊びを通して支援しました。墨さんの生活ぶりを日記を通してご紹介します。

#### さおり隊員の隊員生活裏日記

アッサラーム・アレイクム!! (パキスタンにおける一日使える挨拶です。) 初めまして!! 青年海外協力隊としてパキスタンに派遣中の幼稚園教諭・墨さおりです。皆さん元気のことと思います。

さて、私のいるパキスタンについてこの「ちゃべるニュース」に載せていただけるといことで、どんな事を書こうかと考えたところ、今までほとんど毎日のように書いてきた日記が思い浮かびました。そんなわけで、私の書いてきた日記から特にパキスタンの生活に密着した部分を抜粋して載せたいと思います。少しでもパキスタンライフを身近に感じていただければ幸いです。

**2004年12月7日** やってきました、パキスタン!! 事務所にて着任の挨拶の後、ランチをした。初めてのお買い物。…英語で話した。ウルドゥ語 (パキスタンの公用語) で話しても英語で返されるからだ…。おまけにおつりが2Rs足りなかったし…。だから私は言った!! 「2 (ドー) ルペー・ナヒンヘイ!! (2ルピーないよ!!)」これがパキスタンに来て初めて通じたウルドゥ語。

**2005年1月1日** HAPPY NEW YEAR!! 今年には2回もカウントダウンをしました。なぜなら、パキスタンと日本では4時間もの時差があるから!! 1回目は日本時間の12時でパキスタンでは夜の8時。そして2回目はパキスタンの時間で夜の12時。2回もカウントダウンをして年を越せるのは海外ならではの、不思議な感じでした。

**2005年1月24日** 幼稚園にて活動を始めてから早1週間。この1週間何が辛いかって、交通の不便さ!! 配属先の幼稚園はバスとスズキ (軽トラックを改造した乗り合いバス) で1時間15分の場所。ウルドゥ語が通じないた

めに変な場所で降ろされるし、お釣りを返してくれないし、そのために遅刻もするし…おまけに痴漢にも遭うし…。今度遭ったらはり倒してやる。

**2005年4月24日** 今日はイトワールバザール(日曜市)でイチゴを買った。たくさん買ったので、冷凍してジャムを作る予定。それにしてもこの国って本当に野菜や果物が安くておいしい!!

**2005年6月11日** とうとう幼稚園も夏休み!! 今日から2ヵ月半の夏休み!! 子ども達のほとんどは自分達の村に帰るようだ。8月22日に元気に会おうね!!

**2005年6月12日** 家族への定期連絡。母の第一声。「テレビでパキスタンが出てたよ!! パキスタンってひげのおっさん同士が手をつなぎあっている暑苦しい国なんだね。」…どうやら母のパキスタンにおける第一印象だったようだ。確かにそうだけど…悪印象を持たれるよりは良いのかな?

**2005年6月25日** とうとう室内の温度が40℃を超えた!! クーラーをどんなにかけても暑いわけだ…。

**2005年8月6日** 職場の同僚の従姉の結婚式に呼ばれたので行った。…のはいいけれど、ちゃんと時間通りに同僚の家に行ったのに、みんなちっとも準備してないじゃない!! しかも、結婚式に着ていく服を今作らないでよ～。



この時点で、すでに待ち疲れ…。そして会場に行ったら、ランチタイムの凄いこと!!私はその時、日本のバーゲンに群がるおばさんたちの姿を懐かしく感じてしまった…。その後ようやく、15時半に花嫁登場!!とっても綺麗だった。しかし、写真を撮るだけで終わってしまっすぐに退場…。そして、会はお開き。(この日は親戚に挨拶をする日だったそうです…。)

その帰りのバスで衝突事故にあう…。私の乗っていたバスにスズキが突っ込んできたのだ…。後頭部を打ったが大怪我には至らなかった。良かった、良かった。とりあえず生きて帰ってきました。



**2005年10月2日** 今日  
は断食前の最後の日曜日。メヘンディ(手や腕に模様を描くための染料。お祝い事に欠かせない女性のおしゃれの一つ。)を買って早速試し描き。何だか子どもの落書きのようになった。たくさん描いて精進します!!

**2005年10月6日** 今日から断食。朝のお祈りの前にご飯を食べた後、日が出ているうちは、飲食は禁じられていて、日が落ちた時のお祈りの後にご飯を頂く。(この夕食をイフターリーと言う。)食事の時間が不規則になるから多分ダイエットにはならないと思う。でもできるだけ体験しよう!!断食を!!

**2005年11月4日** 断食が明けました!!その前日はチャンドラート(ウルドゥ語で月夜という意味)と言って、ちょっとしたお祭りでお店が夜遅くまでやっていてとても賑やか。そこでみんなでお店に繰り出してイフターリーブュッフェを楽しんだよ。

**2005年11月5日** 初めて水タバコ(シーシャ)を飲んだ。いろんな味を楽しめるようで、私達はアプリコットとハッカを選んだ。とてもおいしかった。何だかアロマセラピーみたいだった。

**2006年1月11日~14日** イスラム教のお正月がやって来た!!今年のお正月は1日目を職場の同僚と一緒に過ごして2日目は協力隊の



みんなとすごしたよ。特に2日目が印象的だった。その日は予めみんなで購入した山羊を神様に捧げて(これをクルバーニーと言います。)そのお肉でカレーを作って食べました。色んな動物達の犠牲の上で私たちは生きているんだと改めて実感した今日この頃。食べ物は大切に!!

**2006年2月23日** 初めてカシミールティというお茶を飲んだ。あれは詐欺だ!!色は綺麗なピンクなのに、匂いがカレーっぽい!!それに味は…何だか栄養ドリンクみたいだった…。ローズティみたいなのを想像していたためにショックは大きかった。しかし、一度飲んだらやめられないのはなぜだろう…。

**2006年4月28日** 友達とお買い物。刺繍用品を買って揃えた。友達曰く、私の値切りは見ていて面白いそう…。私はにっこり笑って値切っているつもりが、どうやら目が笑ってないから怖いらしい…。だから店員は私と目を合わせないようにしているのか。妙に納得。



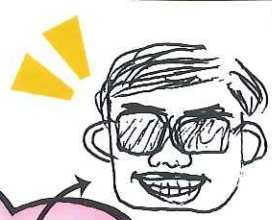
パキスタンライフ…それは毎日が驚き・笑いに溢れている。どんなに辛いこと・怒れる事があっても1日1回は大笑い。機会があれば一度訪れてみてはいかがでしょう?帰国したら皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。

それでは!! ピル・ミレン・ゲ!!  
(また会いましょう)



# BAGUIO

— 北中央教区の中心、カテドラルがある町。  
とっても涼しくて過ごしやすい避暑地です。 —



私達はハロヤオ主教に  
大変お世話になりました。  
感謝の意を込めて、  
アギアマンカミ  
(ありがとう...!!)



北中央教区のカテドラル。  
柳城生のチャペルよりも  
はるかにデカイ!!



平易なおじさんデビッド。  
実は、こうい偉い牧師さんです。



ハイスクールにて交流会。  
私たちは日本の紹介をしました。  
写真は一緒に民族ダンスを踊っている  
所です。

一生忘れられない旅  
になりました!!



ハギオへ向かうバスからの風景。  
大草原が広がっています。

# MANILA

— フィリピンの玄関口。  
行きむり帰りに1日ずっ帯在。 —



フィリピンの民族英雄  
ホセ・リサールの記念館。  
みんな最終日で疲れて  
ます...



大都会 マニラ。



柳城生の  
フィリピンツアー  
2006.3.19~3.28



聖公会のカレッジを  
訪問した記念写真。  
なかなかゆかいな  
学生さん達でした。

# LIPAY!

— 4日間のホームステイをした田舎の小さな村。 —

# 遊んだ!



ロイの悪がキ、ソートップ  
はいつもキレイな味。



子どもたちにも叶くちこ  
されて「キター!!」



手と手をつないで...



「美少女」3級重ね。



まるで息子のような  
キライ。  
やんちゃポーズでした。



やあー!

在校生さんと  
チャプレンが、  
P教区の姉妹教会  
あるフィリピン聖公会  
中央教区を訪問した。  
お友達の木葉子を写真でお  
返します。

# 食



移動中、町の食堂でお昼。  
どれにしらるか迷っちゃう♡



手で食べるのがフィリピン流。  
私たちも上手になりました!!



礼拝の後、リバイ村での最後  
のご食反...  
味わっていろいろ食べました。  
「ブロック!(満腹)」



アンティ



オバーニヤ家



しばちゃん

リバイで お世話になったホストファミリー。  
フィリピンのママを呼ばせて下さい!!!

# 住んだ!



り合いバスのような乗りもの  
がアニー。  
お宿所はアビタです。



シンアレスローライフにぴった  
4日間でした。

## チャペルを10倍「楽しむ」法 (その1)

例えば、サッカーのワールドカップの試合を見るときでも、各国のチームについているんな知識を持っていると、ゲームを数倍面白く見ることができますよね。同じように、いつも見ているこのチャペルも、いろんなことを知ってから見てみると10倍楽しむことができるのです。今回と次回の2回連載の予定。今回はまず基礎知識ということで、チャペルの建物について解説します。

### 本学チャペルの歴史

本学チャペルは、日本聖公会中部教区のしゅうきょうどう主教座聖堂兼名古屋聖マタイ教会として、1960年12月21日に落成し、せいべつ聖別されました。「聖別」というのは、「この建物を『教会』として世俗の用途からは切り離して利用するという儀式」と理解してください。

戦後の混乱期をようやく脱しつつあった中部教区は、1956年の黒瀬主教の着任とともに大聖堂建築の計画をはじめ、同年カナダ聖公会から以下のことが提案されました。

- ・ 柳城短大の北側の畑500坪ほどを購入し、柳城と教区が両者一体となって中部教区のセンターを作ること
- ・ 体育館と教会を並べて建て、体育館は教区の会館にも、教会は柳城のチャペルにも利用できるようにすること

カナダ聖公会と米国聖公会からの資金援助にも助けられ、1956年に現在地に土地を取得することができたのです。

続いて、ここに聖堂を建築する計画が進められました。当時の中部教区の体力では、自己資金のみでこの計画を進めることは困難だったため、1958年に黒瀬主教はカナダ聖公会各地を歴訪して、資金援助の協力を要請されました。ようやく期熟して建築に着手したのが1960年6月、それからわずか半年で完成を見たわけです。

ちなみに、現在チャペル北側に「中部教区センター」の建設が行われています。このころからの構想が21世紀によく形になっているという、気の長い話なんですね。

### チャペルの3つの「顔」

このように、柳城のチャペルは「中部教区主教座聖堂」と「名古屋聖マタイ教会」を合わせた3つの役割を持っています。

「チャペル」とは、学校や病院など教会以外の施設に併設された礼拝堂のことで、そこに勤務する聖職者をチャプレンと言います。これは「学校の付属施設」という顔。

「主教座聖堂」は「カテドラル」とも呼ばれます。主教の椅子（カテドラ）が置かれることが特徴で、主教という存在に象徴される教会の働きをシンボリックに現し、教区全体の働きの中心となる聖堂です。「教区のセンター」という顔です。

「名古屋聖マタイ教会」は中部教区に25ある教会・礼拝堂の一つとして、その地域において礼拝を守り、また地域社会（柳城もその一つ！）とのつながりの中でキリストの教えを現実化するという働きをしています。いわば「街の教会」という顔です。

### チャペルの構造

前置きが長くなりました。ここでそろそろチャペルの中に入ってみましょう。

チャペルは、図で見るように3つの部分に分けられます。まず、正面に見える一段高くなっている部分①、中央の通路と両側の長椅子が並べられている部分②、そして両側の柱で区切られた外側の通路の部分③です。この他、正面右側の扉④の中には小チャペル（メモリアルチャペル）があり、左側の扉⑤の中には礼拝の準備をする小部屋（ベストリー）があります。

①はチャンセルと呼ばれます。この部分は、





図 チャペル内の構造

基本的には聖職者や礼拝奉仕者のみが登る部分で、礼拝の主な部分はこちらで行われるのが普通です。昔は、チャンセルとの間にスクリーンと呼ばれるしきりを作り、チャンセル内が「聖なる空間」であるという印象を強調していたこともあります。このチャペルは開放的な設計です。

正面には大きな十字架⑥があります。この建物がキリスト教の儀式に用いられる「聖堂」であることを、もっともはっきり現すシンボルと言えます。

壇上には2つ（場合によっては1つ）の「テーブル」⑦⑧がありますが、これは聖餐式（ミサ、ユーカリスト）に用いられる祭壇、聖卓です。従来はこの奥の石造りの祭壇⑦だけが、聖餐式の際には司祭も会衆も同じ方向（十字架の方向）を向いて礼拝を捧げていました。（この際、みんなが東の方向を向くように教会が建てられるのが一般的で、これは日の昇る方角、いのちの方角として昔から大切にされていた習慣です。この教会もそうになっています。）しかし、礼拝の改革が進むにつれ、聖餐式が「共に食卓を囲む交わりである」ということが大切にされるようになり、手前の新しい木の祭壇⑧が作られました。現在のマタイ教会の礼拝では、期節（教会暦上の季節）によってこの2つの祭壇を使い分けています。

チャンセルと会衆席の境目のところに、向

かって右には聖書朗読台⑨、左には説教台⑩があります。わざわざこういう場所が設けられているのは、音響装置などがなかった時代に声が聞こえやすいように高いところに造ったという歴史的な理由もありますが、ここから語られる声が単なる人間の「声」ではなく、神の「み言葉」であるという意味があります。

チャンセル左奥にある立派な椅子が、すでに触れた「主教座」（カテドラ）⑪です。

さて、チャペルの最も広い部分を占める⑫に行きましょう。ここ全体を「ネイブ（身廊）」と呼びます。これは「舟」という意味の語から来ており（海軍を「ネイビー」というのも同じ語源です）、教会は神に守られた「舟」のようなものだという意味です。

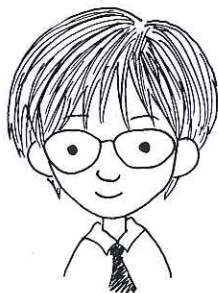
ネイブは、両側の会衆席（長椅子）⑫と中央の通路⑬からなっています。会衆席の長椅子は「ピュー」と言います。チャペルのピューは、ある信徒の方が手作りで奉獻されたものです。ピューには礼拝中ひざまずくための台（ニーラー）がついていますが、足乗せにしたりしないで大切に使用してください。このチャペルの構造では、会衆全員が十字架に向かい礼拝を捧げるという姿勢に大切さがおかれていると言えます。

中央の通路は単なる廊下ではなく、儀式上重要な役割を持つ場所で、「巡礼者の通路」というような名前もあるようです。礼拝の始めと終わりに行列を作り、この通路を通って入退堂しますが、様々な場所に暮らすわたしたちが共に礼拝するためにこの場所に集められ、またそれぞれの場所に散らされていくことを表現しています。また一人一人の人生を考えても、生まれたとき（誕生感謝の祈りのため）、結婚するとき、そしてこの世を去ったとき、うれしいときも悲しいときも皆に見守られながらこの通路を通ります。このときの会衆のまなざしは、いつも注がれている神のまなざしをわたしたちを感じさせるものと言ってよいでしょう。

今回は、チャペル内のいろいろな「品物」を解説したいと思います。

## 新任教員自己紹介

新任の先生方をそっくりな似顔絵と共に紹介します。似顔絵は介護専攻、武智広さんに描いていただきました。



こ だいら ひでし  
**小平 英志先生**

情報機器の操作などを担当している小平です。こんにちは。柳城に来て早3ヶ月が経ちますが、ずいぶん長いことここにいるような気がし

ます。柳城にはそういう、人を受け入れる雰囲気がありますね。廊下に響く練習中のピアノの音を聞きながら、『こりゃ自分もがんばらにゃいかん』と思う今日この頃です。



むらた やすと  
**村田 康常先生**

ときどき、村田先生は普段、何をしているのですか、という質問を受けます。一人のときは本を読んだり音楽を聴いたりしていますが、最近は、

忙しくて忘れていたことを少しずつやりはじめています。家族とゆっくり過ごしたり、友人と食事したり。特別なことではないけれど、今はそれがとても新鮮に感じられます。



はせがわ あつき  
**萩 敦子先生**

本学の卒業生である私にとって、「愛をもって互いに仕えなさい」という教えは、卒業後、職場で出会う、子どもたち、また、高齢者との関わり

の中で、いつもお守りみたいに心のなかにあります。こうして、また柳城に帰ってこられたのも、私にとって、大切な意味のあることだと思っています。

はせがわ たかし  
**長谷中 崇志先生**



2006年4月より着任した長谷中崇志です。今年度の宗教委員を務めさせていただくことになりました。担当科目は、社会福祉、地域福祉研究、

老人福祉論等です。学生の皆さんとの対話を大切に、質の高い支援を行うことができる専門職の育成に少しでも貢献できればと思っています。よろしくお願いいたします。

## おしらせ

▼10月上旬から12月下旬まで、チャペルの改修工事が行われます。耐震補強、エレベーターの設置、窓枠の交換、1階ロビーの改修、建物東側の玄関設置などを行い、クリスマスシーズンにはリニューアルしたチャペルで礼拝を行える予定です。(工事期間中も、チャペルは礼拝に使用できる見込みです。)

▼10月11日(水)は、日本聖公会の執事、太田國男先生をお招きして合同礼拝を行います。会場は体育館です。太田先生は、愛知県出身で今年75歳、熊本の菊池恵楓園に暮らしておられます。ハンセン病の回復者として、いわれない差別や偏見を取り除こうと各地で講演活動などに積極的にとりくむかたわら、特技のパソコン技術を生かした牧会カウンセリングや「いのちのEメール」などの活動も行っておられます。お楽しみに！

2006年7月20日発行 第11号  
発行所 名古屋柳城短期大学  
名古屋市昭和区明月町2-54

編集兼  
発行者 名古屋柳城短期大学 宗教委員会  
印刷所 株式会社 丸和印刷



この印刷物は再生紙を使用しています。